

2023 年度 第 2 回 一般社団法人日本疫学会理事会 議事録

日時	2023 年(令和 5 年)5 月 22 日(月)9:00-12:00
場 所	Web 開催
出席者	(順不同、敬称略) 理事:玉腰暁子(理事長)、井上真奈美(副理事長)、関根道和(副理事長)、 岡村智教、若井建志、神田秀幸、片野田耕太、村上義孝、金子聰、 福島若葉、近藤尚己、郡山千早、井上茂、本庄かおり、有馬久富 尾島俊之(第 33 回学術総会会長)、三浦克之(第 34 回学術総会会長)、 監事:横山徹爾、和田恵子 選挙管理委員長:福田吉治 学会事務局:菊池宏幸(事務局長)、糟谷里美
欠 席	曾根博仁、小橋元、栗山進一

- 理事会に先立ち、玉腰理事長より、理事・監事 19 名の出席により理事会が成立していることが確認された。

< 協議事項 >

- 選挙管理委員会の福田委員長より、2023 年度代議員選挙のスケジュールおよび代議員・選出理事の定数について説明があり、以下のとおり定数が承認された。
 ●代議員定数：北海道・東北 23 名、関東甲信越 43 名、東京 58 名、
 中部 29 名、近畿 43 名、中国・四国 15 名、九州・沖縄 21 名
 ●選出理事定数：北海道・東北 2 名、関東甲信越 3 名、東京 3 名、中部 2 名、
 近畿 3 名、中国・四国 1 名、九州・沖縄 1 名
 また、代議員立候補時の年齢上限の延長について、現在の立候補時年齢が 60 歳上限（おおよそ 62 歳まで代議員）であるものを、63 歳を上限（おおよそ 65 歳まで代議員）とする案が提案され【資料 1-1】、今後選挙規定検討委員会で検討していくことになった。
- 2023 年度第 1 回一般社団法人日本疫学会理事会議事録（案）は承認された。
- 第 7 回一般社団法人日本疫学会定時社員総会議事録（案）は承認された。
- 第 34 回日本疫学会学術総会の三浦会長より、「疫学セミナー」の開催について、過去の経緯を含め説明があり、第 34 回日本疫学会学術総会においては以下の理由により「疫学セミナー」を開催しないとの提案があり、承認された。

【理由】①疫学セミナーの当初の目的が、2018 年開始のプレセミナーに引き継がれている。②疫学セミナー、プレセミナーとも、学会前日の実施、対象者が同じ（非学会医員も参加 可能）、参加費を別途徴収としており、参加者にとっては区別できないものになっており、混乱する。③プレセミナーは 2018-2021 年は疫学専門家委員会の担当行事だったが、2022 年から学 術委員会の担当行事になった。④疫学セミナーを総会長の担当企画とするのは、総会事務局にとって負担になる。⑤総会前日のスケジュールが過密になってきている。会場確保も必要である。

5. 多様性（ダイバーシティ）促進委員会の村上委員長より、高校生の入会について、疫学を学びたい高校生への学会の扉を開く意味でも、学会としての多様性を促進する意味でも、高校生入会・年会費についての規定は定め、オープンにしておくのが良いとの意見が出され、今後継続的に検討していくことになった。
6. 学会等連携推進委員会の曽根委員長に代わり片野田委員より、関連学会との連携による若手学術集会参加費減額の可能性について、まずは日本運動疫学会との協定を進めたいとの提案があり、承認された。また、日本疫学会としてのオンライン教育コンテンツ作成について、広報委員会 疫学リテラシー普及促進 WG、学術委員会 疫学教育推進 WG、編集委員会、学会等連携推進委員会へ詳細を共有しながら進めていきたいとの提案があり、承認された。ただし、プレセミナーのコンテンツの動画配信については、プレセミナーが有料のイベントであり、後日無料で視聴できるようにすることには多少の問題があるため、今後慎重に検討を行なっていくことになった。
7. JE 編集委員会の片野田委員長より、Journal of Epidemiology Supplement Issue 出版申込書を一部改訂し、発行費や発行までの期間等についてより明確な記載にすることが提案され、承認された。

<報告事項>

1. 玉腰理事長より次の報告があった。
 - 日本学術振興会賞の推薦について
 - 日本動脈硬化学会 AMED 申請にともなう分担研究者の推薦について → 杉山大典先生を推薦（2/16）
 - 第 90 回日本医学会定例評議員会（2/22）→ 分科会（各学会）の名称変更にともなう手続きについて説明あり

- [日本産業衛生学会] AMED 令和 4 年度 ヘルスケア社会実装基盤整備事業「メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジー予防介入ガイドライン(課題管理番号:22rea522006h0001)」の作成について、リエゾン委員の小島原典子先生より進捗のご報告あり (2/27、3/11)。→ ① ヘルスケアクエスションの確認作業を小島原先生に依頼 ② 日本疫学会ロゴマークを日本産業衛生学会へ送付
- 国際神経精神薬理学会 2024 年世界大会 (CINP/JSNP/JSCNP2024 東京大会) に対する後援名義使用について→ 協賛金等の負担なしを確認後、後援名義使用の承諾 (3/1)
- 福島県県民健康調査の調査情報に関する審査会の委員推薦について→ 2021 年 6 月に日本疫学会より栗山先生と郡山先生を推薦済み → 2023 年 5 月から 2 年間の任期中で依頼するとの連絡あり (2023. 3/20) → 就任のための書類送付済 (5/2)
- 全国公衆衛生関連学連絡協議会 2022 年度学術集会 (3/25) 報告
- 日本医学会連合 門田班研究費助成事業の報告 (助成期間: 2022/4/1~2023/3/31)
- 2023 年度日本疫学会奨励賞の候補者推薦 (応募期限: 2023 年 6 月 30 日)
- 賛助会員「日本成人病予防協会」の退会について → 3 月 2 日申出があり退会手続き済
- 次に、「はじめて学ぶやさしい疫学」(第 4 版) 進捗状況について、尾島理事より報告があった。

2. 各委員会等から次の報告があった。

- 1) 既存疫学研究データ資源化・共有・活用 WG の神田 WG 長より、日本薬剤疫学会、日本疫学会、および日本臨床疫学会と共同で Outcome-definition repository (ODR) の提供を行うことになり、ODR の限定公開運用を開始する旨の報告があった。
- 2) 学会等連携推進委員会の曾根委員長に代わり片野田委員より、現在の活動状況および今後の活動について次の報告があった。①他学会との共催シンポジウムやセミナーを今後も積極的に推進していく。 ②日本医学会連合「社会医学系若手リトリート」の際に構築された社会医学系若手研究者のネットワークを維持、発展させる活動を支援する。

次に、禁煙推進学術ネットワーク連絡 WG の片野田 WG 長より、ネットワークの定例会議等の報告があった。①加熱式たばこについて調査の協力依頼があり、ネットワークとして見解をまとめる計画がある。②禁煙推進学術ネットワーク学術会議が、2023 年 10 月 1 日第 5 回学術会議@順天堂大学 (オンラインのみ) で開催される。③2024 年第 6 回学術会議を日本疫学会 (片野田)、日本臨床腫瘍学会 (福田実先生)、日本歯周病学会 (稲垣幸司先生) の共催で開催してほしいとの依頼を受けている。⇒正式な依頼状を受けて理事会メール審議をお願いする予定。④第 33 回日本疫学会学術総会@浜松 において、喫煙の健康影響およびたば

こ対策に関するシンポジウム「観察研究からの因果推論 たばこ研究から学ぶ」を開催。⑤2024年1月31日（水）～2月2日（金）第34回日本疫学会学術総会@大津にて、ハームリダクションをテーマにしたシンポジウムを提案。

- 3) 広報委員会の金子委員長により、ニュースレターNo. 61（編集担当：近藤尚己WG長）が4月15日に発行され、10月にはNo. 62（編集担当：小山史穂委員）発行される予定であることが報告された。

次に、疫学リテラシー普及促進WGの福島WG長より、①HPの編集は事務局の負担軽減＋費用節減の観点から、WGで編集対象とするページを独立させ、WGで作業することとなった（JEや若手の会と同じ要領）②まずは疫学用語のページから着手することになった ③「疫学の事典」のコラムの活用について検討している、との報告があった。

さらに、メディア連携ワーキンググループの近藤尚己WG長より、次の報告があった。①プレセミナー2023「研究広報！～メディア関係医者とともに広報戦略を考える」の開催（2月1日）②メディ勉のFBサイト登録者1200人にアンケートを実施する予定。

- 4) JE編集委員会の片野田委員長より、次の報告があった。
- JE編集委員会委員のCOI申告の義務化の再確認を行なった。
 - 投稿、掲載状況に関して、コロナ関連投稿がやや落ち着いたとみられる。年間掲載原著論文数が最大80編程度である。
 - Impact Factor 2021は、2年値が3.809（前年3.211）、5年値は4.748（前年4.139）。
 - 科研費 国際情報発信：JE掲載論文のPR強化を行なった。①2022年10月HPリニューアル、その後編集室メンバーで順調に運用している。②3つの新コーナーを設置（Most Accessed、Editors' Picks、Highly Cited）、アクセス数にも貢献している。③2022年9月Twitter開始、319フォロアー（2023年5月17日現在）。
 - International Advisory Boardはメンバーの連絡先情報を収集中である。
 - オセアニア地域のAEを増やすことと検討中である。
- 5) 国際化推進委員会の郡山委員長より、次の報告がなされた。①第33回日本疫学会学術総会（浜松）においてセミナーは、日韓台シンポジウムを開催した。②JEA外国人会員交流会を第33回学術総会会期中に開催した。③第34回学術総会（2024）では従来のトラベルグラントの募集を行なう予定である。④第34回学術総会における委員会企画シンポジウムの開催を予定している。

- 6) 疫学専門家委員会の尾島委員長より、委員会全体の活動報告があった。①2023年認定筆記試験では、36名が合格。②申請要項（7月1日公開予定）の準備等を予定。③疫学専門家と上級疫学専門家に同時申請できる経過措置は2022年の申請で終了。

次に、井上茂委員（社会医学系専門医協会理事）より社会医学系専門医協会関係の報告があり、特例措置社会医学系専門医・指導医の申請の流れと推薦書の作成について説明が行なわれた。

- 7) 学術委員会の三浦委員長（疫学研究推進WG長兼務）より、疫学研究推進ワーキンググループの活動について、次の報告がなされた。①第34回日本疫学会学術総会の運営委員会へ、疫学研究推進WGメンバーおよび本庄疫学教育推進WG長が参画することになった。②現在推進中の「放射線疫学研究推進グループ」の研究延長が申請され、確認中である。

続いて、疫学教育推進WGの本庄WG長より、次の報告があった。①第33回日本疫学会学術総会において3つのプレセミナーが実施され、参加者数は1,470名（オンデマンド視聴含む）で、実施後のアンケート結果も概ね良好であった。②2023年度のサマーセミナーは、ハイブリッド形式で開催予定である。③第34回日本疫学会学術総会においてプレセミナー2024を実施予定である。

- 8) COI委員会の有馬委員長より、日本疫学会役員等のCOI状態の自己申告の提出（電子入力）を依頼中であることが報告された。

- 9) 総務委員会の菊池委員長より、次の報告がなされた。①社会保険労務士へ法律改訂に伴う就業規則の追加変更およびパート・アルバイト職員用の就業規則の作成を依頼している。②労働衛生コンサルタントと契約し、休職中の職員の復職支援等に関する対応を行なっていただくことになった。

3. 第33回日本疫学会学術総会の尾島俊之会長より、次の報告があった。

- 開催概要：①テーマ：総合知による健康・幸福の向上 ②会期：2023年2月1日（水）～3日（金）オンデマンド配信（2023年2月15日～3月15日）、③会場：アクトシティ浜松（静岡県浜松市）
- 一般演題：①合計演題数 380 演題（現地口演 50、現地示説 145 演題、オンデマンド口演 104 演題、オンデマンド示説 49 演題）（うち 優秀演題賞候補セッション 6 題、英語セッション 6 題）
- シンポジウム等の学術企画

【2月1日(水)】①疫学セミナー「疫学者のための混合研究法」②プレセミナー「研究広報PR！～メディア関係者とともに広報戦略を考える～」 「観察疫学研究における交絡変数選択～変数を『選んで調整』することの功罪とTips～」 「Rで実践！美しいFigure& Tableを作成しよう」

【2月2日(木)】①会長講演「総合知による健康・幸福の向上」 ②特別講演「『総合知』が求められる時代：疫学への期待」 ③メインシンポジウム「総合知活用に向けた疫学研究手法の展開」 ④シンポジウム1「インパクトのある論文の書き方と広め方 ― SNS 活用術」

【2月3日(金)】①教育シンポジウム（社会医学系指導医講習会）「若手疫学者の育成」 ②日韓台シンポジウム「Application of epidemiological research to health policy: achievements and challenges in strengthening research infrastructure」 ③シンポジウム2「観察研究からの因果推論 たばこ研究から学ぶ」 ④シンポジウム3「疫学研究における曝露の測定の実状と展望」

➤ その他のプログラム

【2月1日(水)】①第28回疫学の未来を語る若手の集い「リベンジ企画！若手研究者のキャリアプランを考えよう」

【2月2日(木)】①ランチョンセミナー1「若手に伝えたい疫学の役割」 「コロナ禍における日本人1万人調査が語る～疫学からみる大切な人と人とのつながり～」 ②ランチョンセミナー2 「浜松ウェルネスプロジェクトの取り組みについて」 ③パイプオルガン演奏 ④自由集会1「全国悉皆データ：介護総合データベースで研究をしてみませんか？」

【2月3日(金)】①自由集会2「新型コロナウイルス感染症に関する論文の質とデータソースに関する研究」 ②ランチョンセミナー3「女性が抱える健康問題とプレコンセプションケア」 ③自由集会3「大規模コホート研究データを活用した疫学研究：日本多施設共同コホート研究（J-MICC 研究）の解析テーマ募集と JACC アーカイブの御紹介」

➤ 参加者数：【総計】1,740名 【現地参加者】750名 【オンラインでの学術総会参加者】560名 【オンラインでのセミナーのみ参加者】430名
(疫学セミナー参加者：505名、プレセミナー参加者：1,470名)

➤ 協賛：広告7社、バナー広告2社、ランチョンセミナー3コマ、寄付14口

➤ 収支決算：収入24,817,528円 支出21,476,165円 差額3,341,363円

4. 第34回日本疫学会学術総会の準備状況について、三浦会長より次の説明があった【資料4-1】。①開催日時：2024年1月31日(水)～2月2日(金) ②テーマ：疫学が創る未来社会 ③会場：びわ湖大津プリンスホテル ④開催形態：現地開催

(一部主要演題のみオンデマンド配信予定) ④運営会社：(株)コンベックス ④ホームページ開設：<http://jea2024.umin.jp/> ⑤演題募集：2023年8月1日～8月31日 ⑥協賛募集：各種セミナー、併設展示、講演集広告、バナー広告、寄付金 ⑦託児所委託：(株)アルファコーポレーション ⑧Travel Grants (海外会員の学術総会参加費補助) 募集予定 ⑨プログラム：特別講演「経済学から読み解く『食』と未来社会」(下川哲先生 早稲田大学政治経済学術院) メインシンポジウム、各委員会企画シンポジウム等、プレセミナー

5. 学会事務局活動および庶務について、菊池事務局長より次の報告があった。
- 1) 学会事務局活動：①入会・退会手続き、会員へメール配信、会計処理(各種支払い、謝金の源泉税納付、会計入力)、会費入金処理等 ②理事長ミーティング補助 ③委員会等の活動補助(委員委嘱状の送付、JE編集委員会：編集補助職員勤務管理・給与支払い、掲載料・別刷作成料の請求等、科研費管理・交付申請書および実績報告書提出、広報委員会：ニュースレターNo. 61 編集補助(4/15 発行)ほか ④第33回学術総会開催後の対応：受講票の送付、謝金に係る源泉税の納付 ⑤疫学専門家認定制度：認定証の作成と発送 ⑥疫学教育推進WG プレセミナー(アンケート集計) ⑧第2回理事会、学術総会引継ぎ開催準備 ⑨代議員選挙の準備 ⑩ホームページの更新：ニュースレター掲載、奨励賞推薦の募集掲載、事務局からのお知らせ、関連団体からのお知らせ ⑪関連団体への対応(日本医学会・日本医学会連合、社会医学系専門医協会) ⑫アンケート回答：(株)ユニバーサル社/CMC 学会資料センター、日本医学会分科会
- 2) 庶務報告：①会員数(2023年5月1日現在) 名誉会員：33名、代議員：211名、普通会员：2,547名(合計：2,580名) ※普通会员のうち12月～4月入会の2023年度年会費無料学生会員：12名 ②年会費納入状況(2022年5月19日現在) 2022年度年会費の納入義務のある会員：2,519名、5月19日までの会費納入完了者：1,805名(71.7%)、3年以上の滞納者：57名

以上